
死者のお役所

月島 真昼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死者のお役所

【Nコード】

N6545F

【作者名】

月島 真昼

【あらすじ】

閻魔様はとても情け深いお方です。1人の死者は言いました。閻魔様は滝のように涙を流します。

天国と地獄の境目で、閻魔様が1人の死者の前に座っています。

死者は言います。

「聞いてください閻魔様。私は両親を早くになくし息子は1/100000の確率でかかる病にかかって死に、夫は会社を首になり暴力を振るうようになり、姑にイジメられ、知らないうちに友人に闇金融の連帯保証人にされ毎日のように取り立てに来ました。私は首をくくるしかなかったのです」

閻魔様は涙を流しました。

「そうかそうか。生前そんな辛いことがあったのか。さぞさぞ大変だっただろう。」

では自殺したなら地獄へ行きなさい」

次の死者は言いました。

「聞いてください閻魔様。私は幼い頃から正義感に厚い者で、正義のために働きたいと思い警察官になりました。私は27人を殺した凶悪犯が人質を取り立て籠った際にやむを得ずに射殺しました。人質に傷1つなく救い出したのです。しかし凶悪犯の家族は凶悪犯を私が殺したと責め、私は彼らに殺されたのです」

閻魔様は滝のように涙を流します。

「そうかそうか。それはさぞかし辛かっただろう。お前は自責の念にかられてきたのだな。」

では人を殺したなら地獄へ行きなさい」

次の死者は言いました。

「閻魔様。私は人を騙し、ゆすり、金を巻き上げてきた根っからの悪人ですが前の二人は違うでしょう。どうしてそんなに涙を流しているのに二人を天国にやってはくれないのでしょうか？どうやってから天国に行けるのですか？」

閻魔様は笑って言いました。

「天国はしばらく満杯なんだ」

お役所仕事は死者の国でもいい加減なようです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6545f/>

死者のお役所

2010年10月13日20時59分発行